

まちなかプランの方針と構成

まちなかプランの方針

多くの人々がまちなかに感じ取っていた小高らしい風景を再確認して継承することは、四年半住めなかった今だからこそ、重要なことです。小高を選んだ人たちがさらに豊かな魅力を加え、「選ばれるまち・小高」にする。そうした姿が実現するように、「まちなかプラン」において私たちが留意することを三つの方針としてまとめます。

まちなか全体も敷地も複合的に使う

【まちなか全体の複合利用】

小高のまちなかの特徴は、物販や飲食などの商売、ものづくり、金融機関、学校や役所などの公共施設が集中していることです。同時に、住まいも散在していますが、いずれもがうまく棲み分けていて、複合的な利用がされていることです。それによって、知らない人同士が出会ったり、賑わいが生み出されたりします。

【街路ごとの違いと敷地の複合利用】

まちなか全体の複合的な利用を支えているのは、街路ごとに機能を分けている点と、敷地単位でも複合利用をしている点です。共同駐車場も、在との関係を維持するのに役立っているかもしれません。



◀ 駅前通りは、一本裏の通りは、敷地内の路地来訪者をもてなす空間。阿武隈は、住民らの生活の雰囲気。高地在り。◀ 敷地内の路地は、店、住まい、庭、作業場、倉庫を結ぶ。

人と人をつなげるものを大事にする

【楽しい場所】

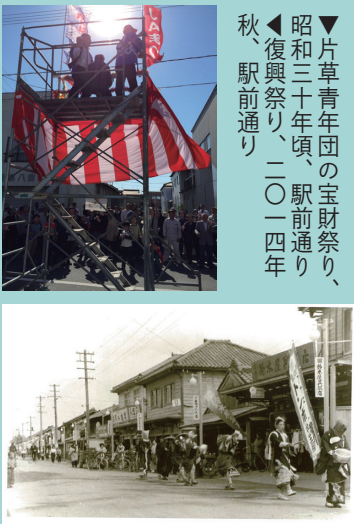
客と言葉を交わし、もてなす空間をちゃんと用意している店も少なくありません。在から、お寿司屋さんや料亭でのひとときを楽しみに来る人もいます。

【季節感をもたらす草花】

敷地の奥に垣間見える花が季節を感じさせます。そういう風景を私たちは共有してきました。

【お祭りの舞台】

お祭りでは、通りや空地がいつもと違った役割を演じます。時代を超えて、お祭りの風景はみんなのもので。小高川からみる小高神社は、まさに昔からの浮舟城です。



▼ 片草青年団の宝財祭り、昭和三十年頃、駅前通り。◀ 復興祭り、二〇一四年秋、駅前通り

激変状態を柔軟に受容し、「戻る・戻らない」以外の選択肢を用意する

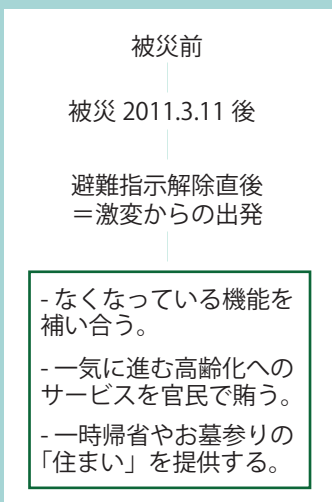
【建物や空地の有効利用】

震災前に比べると、再開店舗や事業所、周辺も含めて住んでいる人の数は、激減した状態に一旦はなつてしまっています。高齢化が進み多様な支援も必要です。あつたものがなくなつていく状態を把握し、足りない部分をみんなで補い合ひましょう。

戻るか、戻らないか、という選択肢を迫るのではなく、一時帰省やお墓参りを支える「住まい」を空き家の有効活用によって可能にしましょう。

【新しい価値を生み出すまちなか】

これまでのまちなかの良さを継承すると同時に、新たな挑戦も応援した結果生じる、まちなかの新しさも必要です。

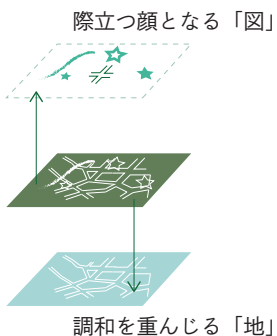


使える建築物や空地を積極的に維持管理して、個人としてだけでなく、みんなでも豊かな時間が過ごせる場所にしましょう。住民、市民、行政、市外者など、みんなで力を合わせましょう。

まちなかプランの構成

【地と図】

風景は「地」と「図」で構成されます。ベースが「地」際立った顔が「図」です。



「地」が乱雑になると落ち着きません。「図」となる華がないと、少しさみしい風景かもしれません。他には見られない建物やみんなが使う場所、まち全体の中心となる四辻などが「図」です。

次ページからのまちなかプランでは、地と図を意識しながら、仕組みも加えて整理します。

p.14-15	まちなかプラン 全体図	地と図
p.16-17	まちなかプラン 敷地の方針	地
p.18-19	まちなかプラン 街路空間の方針	地
p.20-21	まちなかプラン 活動を生み出す空間づくり	図
p.22-23	まちなかプラン 歴史を感じる建物の方針	図
p.24-25	まちなかプランを実現する協働の仕組み	仕組み



▲ 図：一つずつ、丁寧に考えましょう！
▲ 地：周辺と調和することが重要です。空いている土地に緑を植えるのも素敵です。